令和４年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立東大成小学校 ）　学校番号　０５０　【様式】

目指す学校像	地域から愛される　東大成小学校

重点目標	
	１　どの子にとっても　潤いのある楽しい学校　（通いがいのある学校） ２　保護者だれもが　まかせて安心な学校　（通わせがいのある学校） ３　職員みなが　やりがいいっぱいの学校　（働きがいのある学校）

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和５年２月１３日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1 学力向上に関する取組	〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語・算数とも国語、算数とも市平均程度の結果である。 ○学習面では、基礎的な学習内容の理解は概ねできている。 ○タブレット型コンピュータを授業に活用することが増えている。 〈課題〉 ○各学級に個別的な教育支援を必要とする児童がおり、個別最適な学びを進めるための支援体制を検討する必要がある。 ○総合的な学習の時間及び STEAMS TIME の取組を構築する必要がある。 ○タブレット型コンピュータを使用した調べ学習や反復練習が不十分である。 ○体力が全般的に低く、全国平均を下回る。	・『基礎学力向上』に向けた取組の充実	①ＧＩＧＡスクール構想に基づき、タブレット型コンピュータを積極的に授業で活用する。 ②個別最適な学びに向けて教材研究を行うとともに習熟度別学習の実施など個に応じた指導方法を実践する。 ③体育の校内研修をとおして、年間を通じて授業の構造化を実践することで、指導力の向上を図る。 ④フレッシュタイムで体力向上を図る。	①登校後、タブレット型コンピュータにログインし、算数・国語の基礎学習課題を実施したか。 ②本市よい授業の授業スキルの向上と習熟度別学習やスクールアシスタントによる個別支援を実施したか。 ③体育科校内授業研究会及び小学校体育連盟研究発表会を実施したか。 ④フレッシュタイムの内容の工夫改善による体力の向上を果たしたか。	①教職員 88%、児童 87%がタブレット型コンピュータの積極的な利用を肯定的に評価している。 ②本市「よい授業」学校全体の達成度は全 4 項目で 80%以上、また学力向上カウンセリング学校訪問(令和４年度全国学力学習状況調査「生活習慣や学習環境に関する調査」結果の分析)からも、本市の目指す授業実践が行われている評価が得られた。 ③2 年間の研究成果として実施した市教育研究会研修大会では、市内 40 名以上の教員及び指導主事より肯定的な評価が得られた。 ④教職員 94%、児童 88%が業前活動や体育の授業等での体力向上が図れたと評価している。	A	令和 4 年度全国学力学習状況調査(教科に関する調査)結果では、全国平均とは同程度であったが、市平均と比較し国語・算数は３ポイント、理科は４ポイント下回っている。学力向上カウンセリングを通して、基礎学力の向上に向けての課題を明らかにすることができ、今後、読み取る力や考える力を中心に高めていく。 基礎的・基本的な学習内容の定着はもちろん、個別的な教育支援を必要とする児童への適切な教育の提供や学習環境の整備、また ICT 機器等を活用した個別最適な学びを進めるための支援体制等の更なる構築を推進していく必要がある。	・学力向上に向けた取組を最優先に実施して欲しい。「読み取る力」「考える力」を身に付けて欲しい。タブレット端末の利用に関しては、適材適所で効果的に活用していって欲しい。小学校で基礎的・基本的な学力を身に付けて中学校につないで欲しい。 ・さいたま市の施策である様々な取組を実施することができている。特に、タブレット端末を授業で積極的に活用することができていた。今後は、基礎的・基本的な学力向上に向け、ＳＳ（スタディステーション）の環境整備、支援ボランティア体制づくり等を学校とＰＴＡが協力し実施していきたい。 ・基礎的・基本的な学力向上に向けた具体的な取組・支援体制を地域へ示して欲しい。
		・学ぶ楽しさを実感できる「東大成小版ＳＴＥＡＭＳ　ＴＩＭＥの創出」	①さいたまＳＴＥＡＭＳ教育の実践として、地域の教育資源を生かした体験的な学習を行う。 ②教科横断的な学習を通して、探究活動を通して、学ぶ楽しさを育成する。 ③タブレット型コンピュータを活用した探求活動とﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝを実施する。	①STEAMS TIME の活動計画を策定したか。 ②教科横断的な学習を実施したか。 ③タブレット型コンピュータを活用した調べ学習や探究活動における学習のまとめを作成したか。 ④授業参観で成果発表会を実施したか。	①②教職員 38%、児童 77%が概ね達成したと評価している。一方で、保護者 46%、地域 60%が「分からない」と回答した。 ③④市内全体の中でも ICT 機器の利用率は上位に入っており、教職員・児童共に 82%がタブレット型コンピュータを活用したプレゼンテーションスキルが向上したと回答していることからも、積極的な利用が分かる。	B	「STEAMS TIME」の指導法については、教職員からも「指導法についてより一層の研究を深めたい」という声があり、さらなる工夫改善に加え、各種便りや授業参観等を通して保護者や地域へ情報を公開していく必要がある。	
2 安心・安全に関する取組	〈現状〉 ○学習規律は、整っている学級が多い ○不登校等教育相談のニーズがある児童と保護者が複数いる。 〈課題〉 ○授業におけるユニバーサルデザインに基づくルール作りが不十分である。 ○遊具等の老朽化が目立ち、適切な維持管理が必要である。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実	①心を潤す４つのことば・あいさつ運動の一層の推進 ②事件・事故・子ども同士のトラブル、家庭と学校とのトラブル等に対する初期対応の充実 ③心と生活のアンケートの結果への迅速な対応を行う。 ④不登校解消に向けた支援の充実 ⑤SC、SSW、さわやか相談員等との連携・教育相談に関する情報共有の徹底 ⑥生命尊重教育の充実を行う。	①児童会を活用した心を潤す４つのことばの推進運動を実施したか。 ②トラブル事案への迅速な初期対応と誠実な対応、アフターフォロー、管理職による組織的取組を実施したか。 ③面談実施と家庭連携を強化したか。 ④教育相談室等関係機関連携による改善を果たしたか。 ⑤教育相談件数を増加させたか。 ⑥「いのちの支え合いを学ぶ」授業におけるＴ．Ｔ授業を実施したか。	①教職員 63%、児童 61%、保護者 41%が「概ね達成している」と回答している。 ②児童 93%、保護者 67%がトラブルへの迅速な対応に対して肯定的な評価をしており、教職員の 80%以上が児童及び保護者等への丁寧な対応を心掛けていると回答していることからも相関関係がみられた。 ③教職員 94%、保護者 69%が「心と生活のアンケート」への迅速な対応ができていると肯定的な評価をしている。 ④教職員 87%が不登校解消に向けた対応が概ねできていると評価している。 ⑤令和 4 年度教育相談件数は、SC との面談希望件数は 37 件(前年度比 100%)、SSW との面談希望件数は 25 件(前年度比 132%)であった。 ⑥教職員 88%、児童 59%が生命尊重教育の充実について概ね達成と回答している。	B	不登校解消に向けた支援方法や、SC や SSW など専門職との連携による教育的効果が保護者に十分伝わっていないことが、半数程度が「分からない」と回答したことからもうかがえる。 悩みや相談等の有無に関わらず、児童一人ひとりの多様な個性が尊重される環境が整っており、誰もが安心・安全な学校生活を送ることができる学校であることを保護者や地域等へ積極的に発信すると共に、様々な機会で連携を強化していきたい。	・児童が「安全に登校できている」の評価が高かったのは素晴らしい。これからも、安心・安全に登下校をすることができるよう地域がパトロールを強化していく。 ・今後も、安心・安全な登下校ができるよう地域、家庭、学校と連携していきたい。 ・ＳＣ、ＳＳＷ等についての家庭への周知を様々な機会に情報発信して欲しい。 ・国でマスクを外すよう指示が出ているが、学校で子ども達がいじめ等のトラブルが無いよう、対応して欲しい。
		・安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成に向けた教育環境の充実	①老朽化した遊具の修繕を行う。 ②施設・設備・教育環境づくりを行う。 ③安全指導、安全教育を実施する。 ・防災教育の充実 ・登校・下校指導の充実と交通安全に対する意識の高揚 ・PTA と連携した安全な登下校体制の改善	①老朽化した遊具等のパーツの交換による教育環境を改善したか。 ②老朽化した校内環境を改善する。特に、劣化した遊具の交換やペンキ塗布等で維持管理したか。 ③避難訓練及び交通安全教室における正しい自転車の乗り方の指導の実施と登下校時の安全対策の持続可能な取組への改善をしたか。	①教職員を中心としたバスケットゴールの修繕及び新コート設置等により、教職員 87%、地域 60%、保護者 66%から肯定的な回答が得られた。 ②PTA 役員や保護者ボランティア等と連携し、正門や遊具等のペンキ塗布を行ったことで、教職員 88%、地域 60%、保護者 77%から肯定的な回答が得られた。 ③教職員 94%、児童 90%以上、保護者 86%が安全教育について肯定的な回答をした。交通指導員や防犯ボランティアを中心とした地域の協力が大きな一因としてある。	A	老朽化した遊具や施設・設備等の修繕による環境整備は今後も施設課等と連携し継続していく。(来年度、一部遊具撤去申請済み。) 一方で、防犯ボランティア構成員の高齢化等様々な懸念事項もあるので、サスティナブルなボランティア制度の在り方について熟議する必要がある。	
3 開かれた学校づくり	〈現状〉 ○PTA が教育環境改善に力を入れ、保護者ボランティアを募っている。 ○地域の学校安全ボランティアが登下校を見守っている。 〈課題〉 ○地域の社会人講師リストが更新されていないため、社会人講師が活用されていない。 ○地域による学校への要望はあるが、学校運営に関わる当事者意識への意識改革が今後の課題である。	・目指す児童の姿を地域全体で共有するための ICT 活用、教育活動公開	①学校運営協議会において熟議を実施する。また、学校ウェブページを改善し、地域のコンテンツを作成する。 ②家庭の役割を明確にし、いっそうの連携をする。 ③地域行事との連携と、地域の社会人講師等の教育力を活用する。	①学校ウェブページに学校運営協議会のページ、チャレンジスクールのページなどを作成したか。 ②学校支援ボランティアを募集し、学校に携わる機会を増やしたか。 ③教科・領域における学習活動での地域連携を実施したか。	①学校ウェブページの改善については、教職員 100%、地域・保護者 60%が肯定的な回答をした。 ②読書ボランティアや校外学習支援ボランティア等の協力により、教職員 56%、地域 60%、保護者 71%から肯定的な回答が得られた。 ③教職員 57%、地域 40%、保護者 57%の肯定的な回答が得られた。	B	新型コロナウィルス感染症による社会不安等が徐徐に回復し、各種ボランティアが再開したが、教職員はどのようなボランティア(例えば読書ボランティア、昔遊びボランティア、落ち葉はきボランティア、鉄道ボランティア等)が存在しているのか、またどのようなことができるのか等根本的なところで足踏みしている。 まず第一に、地域の社会人講師リストを教職員間で共有することから始める必要がある。その情報をベースに加除修正を積み重ね更新すること、また年間指導計画に位置付け、指導内容とリンクするような情報共有を教職員間で行うこと等が必要である。 子どもを取り巻く大人ができることを考え、実践していくという共通理解を継続していく。	・地域ボランティアの要望があれば、地域としても協力をしていく。 ・「地域の活動や行事に進んで参加している」の項目では、児童の評価が低かったので、今後、学校と地域が連携していきたい ・コロナも収束に向かうので、令和５年度は地域の社会人講師を積極的に活用した教育を実施して欲しい。
		・児童の自律につながる継続的な取組にむけた「成長プラン」の策定と行動	①地域の社会人講師リストを更新し、授業でゲストティーチャーを招聘する。 ②学校運営協議会で、学校・家庭・地域のそれぞれの取り組むべき課題を明確にする。	①社会人講師リストを活用したか。 ②地域社会人講師を活用したか。 ③学校運営協議会で熟議を通して役割を整理し、分担をしたうえで課題へ取り組んだか。	①教職員 31%、地域 40%、保護者 37%の肯定的な回答が得られた。 ②教職員 69%、地域 60%、保護者 40%の肯定的な回答が得られた。 ③第１回及び第２回学校運営協議会で、学力向上と地域の安全対策について、学校・家庭・地域の役割を熟議し、課題を明らかにした。	C		
4 教職員の資質向上	〈現状〉 ○エバンジェリストを中心に、タブレット型コンピュータの活用について研修を行ってきた。 ○体育の校内研修を通して、授業改善を行っている。 ○働き方改革を進めるため、業務改善に取り組んでいる。 〈課題〉 ○時間外在校時間が依然として長い。 ○年間を通じて多忙感がある。	・一人ひとりが力を発揮し、学校に集う誰もが居心地の良い学校を作る研修の実施	①教職員研修を充実させる。 ②凡事徹底 ③働き方の見直し	①タブレット型コンピュータを活用した業務改善について、各自の取組でよりよいものを共有することで効率的に業務できるようにしたか。 ②校務のＤＸ化を進めたか。 ③見通しをもった勤務ができるように、退勤予定時刻を設定し、効率的に勤務できるようにしたか。	①ICT 教育推進部から提供されている PC 操作スキル向上に役立つ情報(『やさしい ICT 教育推進』)、エバンジェリストによる実践レポ(『東大成小 ICT 実践』)、教務担当者によるデジタル教材の各種通知（ミライシード、スタディ・サプリ等）などにより、教職員の 88%が肯定的な回答をした。 ②各種データの保存・共有、会議資料等の電子化、Teams 等を活用した通知や情報の共有等様々なシーンで校務の DX 化が進み、教職員の 90%以上が肯定的な回答を示した。 ③働き方の見直しについては、約 70%の教職員が肯定的な回答をした。	A	左記の内容をはじめ、各種朝会のデジタル化（ライブ配信）なども含め、校務用端末を利用した業務のスリム化はかなり進んではいる。 一方で、従来の価値観からの脱却を更に促し、勤務時間の中で「できること・やるべきこと」等をより一層精査し、見通しをもって業務にあたることが強く求められる。	・東大成小学校の教職員は、ＧＩＧＡスクール構想に基づき、個別最適な学びに向けた教材研究を熱心に行っている。学校に行く機会が多いが、教職員の方々の忙しさが伝わってきた。